事例No.	1008
公表年度	R1
団体の属性	特別区
団体名	東京都杉並区

事例区分	行政改革

タグ	・EBPM ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	EBPMの取組

事例内容・タイトル

「ビッグデータETC2.0」を活用した生活道路の安全対策

出典

地方公共団体における行政改革の取組（令和2年3月27日公表）

★EBPM※1①の取組〈東京都杉並区（人口約57万人）〉

※1　EBPM(evidence-based policy making)･･･証拠に基づく政策立案

○「自動車の速度や経路の情報」や「急挙動情報」等「**ビッグデータETC2.0**」※2**を基に、生活道路の安全対策を実施**。　※2　車載機から得られる料金収集の情報サービスに加え、走行位置や速度などのプローブ（車両の走行）情報

○　**潜在的な交通の状況を把握**し、これまでの**「事後対策型」から「予防型」の安全対策へ転換**。

〈「ビッグデータETC2.0」を活用した生活道路の安全対策〉

課　題

○　区では、小学校・PTA・警察署とともに通学路の安全点検を行い、保護者などの「実感」に基づいた安全対策を実施。

○　交通安全に関する要望も、職員の「経験」から必要性と対策の内容を判断。

⇒　対策の必要性についての**定量的な判断材料が乏しく、真に必要な場所へ効果的な対策ができているのかの検証が困難**。

取　組

○　生活道路の安全対策として、現地の状況把握や経験に加え、国土交通省東京国道事務所から提供される**「ビッグデータETC2.0」を活用**。

○　**「ビッグデータETC2.0」の分析を通じて、潜在的な交通状況を把握**するとともに、**各地点に効果的な対策を割り出し**、路面標示（狭さく・イメージハンプ）やポールを設置。

⇒　**「事後対策型」から「予防型」の安全対策へ転換**

【対策例】



地形的に低くなっている交差点付近で平均速度の高い車の割合が高く、特に**南向きに走行している車両が多く急ブレーキを踏んでいる**ことが判明。



漫然と交差点に対する安全対策を行うのではなく、**南向きに走行する車両へ重点的に速度抑制対策や注意喚起を行うことが効果的**

成　果

○　対策後、「ビッグデータETC2.0」を再分析し、効果を検証。
【H30 馬橋通り】
①**一部の区間で、速度30km/h以上で走行する車両割合が減少（60%→40%）**
②**一部の区間で、車両の平均速度が低下**などの結果を取得。

○　速度抑制などの効果は限定的であり、凸部（ハンプ）や屈折部（クランク）設置など、物理的デイバスの検討も必要。

ＥＴＣ2.0プローブ情報の特徴



杉並区／ビッグデータを活用した交通安全対策
https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/machi/douro/1050444.html